



公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

整理室へ
ようこそ！！

見て感じて考古学

整理室では…

整理室では、発掘調査で見つかったモノの“資料化”を行っています。モノが見つかった場所をモノに書いたり（注記）、土の中でバラバラになった土器を元の形に戻したり（接合・復元）、測って図にしたり（実測）、できた図をデジタル化したりして（製図）、『発掘調査報告書』を作っています。

スタッフたちの熟練のワザを、ぜひ目の前でご覧ください。



まめのぶくん



©mana

公益財団法人滋賀県文化財保護協会の
最新情報

Youtube



しがぶんちゃん

◇ 整理 調査 中の 遺 跡 紹 介 ◇

佐和山城跡 (彦根市)

遺跡の概要

佐和山城跡は、彦根市古沢町ほかにある室町時代～安土桃山時代の城館跡です。言い伝えでは、鎌倉時代初め頃(13世紀、およそ800年前)に近江守護・佐々木定綱の六男時綱が館を構えたのが始まりとされています。戦国時代(16世紀、およそ500年前)には、湖北の京極氏や浅井氏と湖南の六角氏が戦を繰り広げ、後には織田信長と浅井長政の争いの舞台となりました。

天正18年(1590)に石田三成が城主となり、本格的な城郭として整備されました。しかし、慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いで三成が敗れるとまもなく落城し、のちに徳川家臣の井伊直政が入城しました。慶長8年から西側にある彦根山に新たな城が築き始められると、佐和山城は廃止され、城下町までもが彦根城へと移されました。

調査の概要

平成30年度～令和4年度に行った発掘調査では、16世紀終わり頃の城下町のメインストリートだった「本町筋」や外堀(城の外側にめぐらされた堀)などが見付き、当時の土器や陶磁器などが見つかりました。

外堀は、古文書や見つかった遺物から文禄5年(1596)に三成が行った大規模な拡張の時に造られたと考えられます。造られた年代がわかる、貴重な調査成果です。

見つかった陶磁器には、信楽焼、備前焼、常滑焼、瀬戸美濃焼、志野焼のほか中国産磁器など各地の焼き物があり、当時の流通の広さがうかがえます。



佐和山城城下町のメインストリート「本町筋」



佐和山城の外堀跡



天目椀が見つかったようす

朽木陣屋跡 (高島市)

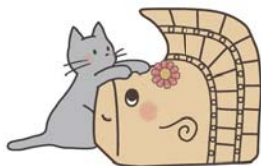
朽木陣屋跡は、高島市朽木野尻のじりにある室町時代～江戸時代の土豪の居館跡および陣屋跡です。もともとは朽木氏がこの地に承久3年(1221)より居住していて、遺跡名の陣屋(3万石以下の領地を持つ大名の屋敷や政治をする場所)として整備されるのは17世紀初め頃と考えられます。

令和4年度に行った発掘調査では、幅5m以上・長さ16m以上の堀跡や、登城道とじょうどうと思われる道路跡などが見つかりました。堀跡からは15世紀後半頃の土器や陶磁器が見つかり、朽木氏の居館に関わる堀跡とみられます。この堀跡は、平成12年度に東隣で行われた発掘調査でも見つかりました。



朽木陣屋の堀跡と登城道跡

蜂屋遺跡 (栗東市)



©satomi

蜂屋遺跡は、栗東市蜂屋ほかにある縄文時代～江戸時代の集落跡です。

平成28年度～令和元年度に行った発掘調査では、飛鳥時代(7世紀後半、およそ1,300年前)のお寺の区画溝跡くかくみぞや奈良時代(8世紀、およそ1,200年前)の掘立柱建物跡ほったてばしらたてもの、鎌倉時代の屋敷跡などの遺構や、飛鳥時代の大量の瓦や鎌倉時代の土器(食器類)などが見つかりました。



大量の瓦が見つかったようす

出庭遺跡・手原遺跡 (栗東市)



©代一

出庭遺跡は栗東市出庭にある古墳時代～近代の集落跡であり、手原遺跡は栗東市手原ほかにある古墳時代～江戸時代の集落・寺・役所跡です。

平成30年度～令和4年度に行った発掘調査では、古墳時代中期(およそ1,600年前)の鍛冶工房かじこうぼうや玉造工房たまつくりに使われた竪穴建物跡たてあなたてものなどの遺構や、当時の須恵器・土師器などの土器のほか、大陸からの渡来人が作った韓式系土器が見つかりました。また、ガラス小玉を作るための鑄型いがたも見つかりました。



鍛冶工房と考えられる竪穴建物跡

自由研究のテーマに…江戸時代の近江

江戸時代の近江では、彦根藩（彦根市）、膳所藩（大津市）、水口藩（甲賀市）といった城を持つ大名の領地と大溝藩（高島市）、西大路藩（日野町）、三上藩（野洲市）などの陣屋を持つ小大名の領地、そして、全国の各藩がもつ領地が入り乱れていました。それは、幕府が京の都に近い近江を重要視して、大藩を設置しなかったためと考えられています。そんな当時の近江の城を巡ってみてはいかがでしょうか。

彦根城（彦根市金亀町） 現存する12天守の1つで、慶長8年（1603）に諸大名に造営資金を負担させる天下普請の城として築城が始まり、元和8年（1622）に完成しました。江戸時代を通じて井伊氏が城主でした。明治時代に壊される予定でしたが、大隈重信が明治天皇に働きかけて保存されることになりました。現存する天守や庭園の玄宮楽々園のほか、復元された表御殿には彦根城博物館があります。

膳所城（大津市本丸町） 慶長6年（1601）に天下普請の城として、それまであった大津城に代わる東海道の抑えとして築城が始まりました。城主は当初は戸田氏、本多氏、菅沼氏、石川氏とめまぐるしく変わりましたが、最終的には慶安4年（1651）に本多俊次が入城して以降は本多氏が幕末まで城主を務めました。明治3年（1871）に解体され、現在その城跡は公園となっています。

水口城（甲賀市水口町水口） 寛永11年（1634）に、3代将軍家光の上洛のための宿泊所として築かれました。ただ、将軍の宿泊はこのときだけで、以降は天和2年（1682）に加藤明友が入城し、水口藩が成立します。本丸御殿は正徳年間（1711～1716）に解体され、そのまま幕末を迎えました。現在では、復元された乾矢倉に水口城資料館があります。

会場案内図

